

奄美の多様性、独自に表現

東京 「ヌチ」をテーマに山中順子展

奄美の長寿者なを撮り続けている横浜在住の写真家山中順子さん（56）の個展「生命（マフツ）ヌチ」が、7月19日から21日まで東京で開かれた。写真や詩、絵、音楽などすべて自作の作品で構成された「ヌチ」（同展）で音楽家や学者、俳優など著名人たちの演奏やトークが繰り広げられた。



山中さんのライフワークである100歳の写真をはじめ、自作の作品で構成された「ヌチ」

をたづねた空間のカシ 流行事などの写真を配 置、新に撮影した映像 や写真を用いて、ヌチの 中で通って、ヌチの に入仕組み。

奄美の月明かりが、ヌチの白砂やサングのかけ した透明な青い光が、 草木が敷き詰められ、 シマの現地も、黒糖や焼 酎、きび酢など特産品も をテーマにした映画、主

展された。

三部構成で期間の前半 は自然中心にした「平 瀬のカシムル」、続いて シマの伝統文化に触れ

然文化で構成した空間 には奄美大島の森林生態 系など研究している田 健東大教授や山中、村

美には私たちの未来にと



東大の石田さんや子どもたちを招いて自然に学ぶイベントもあった

演に俳優の榎本孝明さん、女優の小川ちづるさんらと山中さんのトーク、音楽家たちの演奏など多彩なイベントが繰り広げられ、感嘆を呼んだ。

山中さんの試みは、自作の作品で立体的に奄美

の自然や文化をイメージ した回廊を創出。その空

間を舞台に多様なイン

人々を展開しつつ、大東

信し、特産物もアピール

する。このことまでにな

断斬新手法。奄美の深

みを伝える新たな試みと

して注目されている。

山中さんには、奄美の温

かい（？）（？）（？）（？）

しく光る。生とヌチ、生

命、そして手触りの記憶

を表現してみましたが、

美には私たちの未来にと

ってかけがえのないもの、普遍的なものがある、

ているような気がしま

す。その「海」を私に

りに表現したい。また、

また、始まったばかりで

す。奄美を表現することは

は奄美の城を越え、さら

に時代を超越していくよ

うに思っています。今回も

奄美の方々は、始め

たさん、人々、の、

手が、白く、ついで、

うなイベントが、

た。心から感謝していま

す。と語っている。